

高退協ニュース

夏季学習講座

恒例の夏季学習講座が8月24日、窪田充治・西森稔氏を講師として行われ、参加者は37名でした。

窪田さんの「地域と教育」・香長ゼミナールの10年：は、地域の教育にとどまらず海外の人々との交流など、平和運動の拠点としての同ゼミの活動が、豊富な資料・写真を基に報告され、参加者を勇気づけました。

西森さんは「年金制度を考える」という演題で、政府案の矛盾指摘し判りやすく話された上で、改悪を許さないという怒りを力に行動を起こすことの重要性を訴えられました。

また、叶岡哲氏のハモニカ演奏も行われましたが大好評で、和気藹々のうちに学習会が終わりました。

第2部・懇親会は31名の参加でしたが、叶岡さんのハモニカの伴奏で合唱するなど、楽しい会になりました。

機関誌「こうたいきょう」25号

今年も年末に「こうたいきょう」25号を発行します。今年のテーマは「憲法と私」です。原稿紙五枚以内で「投稿お願いします。その他に例年通り俳句・短歌・詩・川柳・随筆・等々積極的な投稿をお待ちしています。」

憲法改悪を阻止する 県民のつどい

8月15日グリーンホールで開かれたこの会での講演は、国立市長 上原公子さんの「憲法の花ひらく日本を」だった。

日本の国を右に急旋回させることに熱心な小泉首相、そしてより強硬な石原東京都知事のもと、市長二期目を迎えた上原さんがどのような考えに基づいてどんな実践をしているかが具体的に語られた。上原さんは行動力に富んだ市長である。小さい地方公共団体を運営することだけに気を取られるのではなく、意見書やホームページを通して積極的に発言し、働きかけをしていることが報告された。

日本を公然と戦争ができる国にするために躍起になっている小泉内閣とその追随者世界に誇ることのできる憲法9条を塵芥のように投げ捨てる道、それによって誰が利益を受け誰が犠牲になるのか？ある自衛隊幹部は「自衛隊は人を殺すのが仕事。軍事の本質は敵を殺すこと。住民は邪魔だ。」と公言したそうである。

他国の人の命も国民の命も軽んじるかつての日本に再びなつてはならない。そのため9条を守りぬかなくてはならないと強く思った(小島)



近況報告ハガキ

「こうたいきょう」掲載の「近況報告」を同封の私製ハガキに記入し切手を貼って返送をお願いします。

原稿締め切り 十月末日
送り先 高知市丸の内高教組



高知高退協事務局
04.9.14
No.130

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 088-1822-1682
TEL 088-1822-1682
郵便振替口座 0165012111893

新加入者-20名-

- 松岡洋彦 (中芸)
- 式地由子 (山田養)
- 森本章代 (希望の家)
- 宮川敏彦 (北)
- 渡辺正子 (北)
- 中村正博 (高知工)
- 東谷裕行 (高知商)
- 長滝正雄 (佐川)
- 梶原祥三 (佐川)
- 植田祥代 (高岡)
- 産田知子 (伊野商)
- 渡辺絹子 (日高養)
- 公文左千夫 (日高養)
- 岡本雅道 (須崎工)
- 毛利典子 (中村)
- 熊野信代 (幡多農)
- 夕部容弘 (海洋)
- 中島純臣 (若草養)
- 中村 郁 (高知高)
- 有光 勲 (高知盲)

憲法9条を守りぬこう！

いま衆参両議会では改憲勢力が、改正に必要な発議のための三分の二以上となっています。そして、改憲、とくに9条改悪にむけて策動を続けています。背景にはアメリカの圧力があることは自明の事実です。

この危険な動きに反対して、大江健三郎氏をはじめ9名の有名人が「憲法9条の会」を発足させて、全国的な運動となつてきています。県内でも、革新懇をはじめ、労組や民主団体が、県民の過半数の署名を求めて運動を展開しています。憲法改正には国民の過半数の賛成が必要だからです。今のところ、世論調査のすべてで、9条改正反対が六割を超えています。この有利な情勢に依拠して、私たちも知人友人隣人等に、あらゆる機会に、あらゆる場所で、「憲法を守る」の声を上げ、署名運動に立ち上がりましょう。

まだ遅くはありません、機を失することなく勇気を出して踏み出しましょう。子や孫たちのために平和憲法を守りぬきましょう。

草声无語

この八月、広島市の原水爆禁止世界大会に久しぶりに参加しました。思えば47年前の八月、第三回東京大会に、高岡高校の生徒会代表二名を引率して参加。当時は溝淵知事が県原水協の会長で、県民ぐるみの運動となっていました。その後色々な曲折はありながらも、原水禁運動が続けられてきて、世界的な運動に発展しているのは頼もしい限りです。

だが、アメリカは核兵器を戦術兵器として使用しようとしており、現に劣化ウラン弾によるイラクの子どもたちの被爆が問題となっています。核兵器と人類は共存できるはずはなく、一日でも早い、すべての核兵器の廃絶が強く望まれます。

来年は被爆60周年。ニュー・ヨークでNPT(核不拡散条約)の再検討会議が開かれることになっています。今こそ世界の世論を高め地上から核兵器を全て無くすることが緊急の課題となっています。今年の世界大会には海外代表66名が参加し、今こそ核兵器廃絶を！と強く叫んでいました。また、各地での基地撤去運動の高まりも報告されました。国内でも、青年学生が「ノーモアヒロシマ・ナガサキ」の運動の先頭に立っています。

私たちも、今一度広島・長崎・ビキニの被爆を想起し、「いま、核兵器廃絶を！」の署名運動を強力にすすめるようではありませんか。

川柳 小澤 幸泉

川柳集①

汗くさ父の背中にある平和
眼覚めれば達者と思う妻が居る
同じ血がまだ流れているイラク
十字架のいのち私にまだ遠い
次世代に渡す迷いの負の遺産

寒東寺残日録

坪井 幹之

「魔の山と忠治の山」

「山の会」8月例会を上州の谷川岳と赤城山で実施。参加者、女6名、男4名。八月二日出発。世界的な異常気象か、台風一〇号は四国を直撃後、日本海に抜けたが集中豪雨を残した。土讃線ストップ、急遽航空便に切り替えて東京へ。新幹線とバスで谷川岳の山麓土合に入る。まずは「一の倉沢」の見学。剣、穂高と並び称せられる岩場である。ここが今までに千人に近い岳人の命を奪った「魔の山」である。天候に恵まれ谷から稜線にいたる峻険たる岩壁を堪能できた。想像以上の感奮に驚嘆して宿に向かった。

翌日は谷川主峰の登頂を目指す。ロープウェイとリフトを使って天神山(一五〇二米)に上がる。ここから眺望の素晴らしい尾根を辿って「熊穴沢小屋」へ。小屋から見る谷川岳本体は天高く屹立している。頂上までは急登につき急登で息を継ぐ間もない。年老いた身に鞭打ってやつと「トマの耳」(三角点あり)にたどり着く。続いて隣に並ぶ「オキの耳」(最高点・一九七七米)へ。全員頂上を制す。感激の記念写真。頂上からの展望は見事で、関東国境の山々を中心に名峰が重畳と続く。尾瀬、日光、越後、浅間、会津の山々、…明日登る赤城も見える。昼食後、下りにかかる。予定より時間がおそくなっていたので一気に降りる。登りには幾度も休憩をとったが復路は一度休んだだけ。天神平から谷筋のコースを予定していたが、熊が出没するとの情報で、命あつての物種と再びロープウェイで土合に下り、タクシーで谷川温泉の宿に向かった。

四日は赤城山探訪の日。幸いにも天気は晴れ。前橋経由で赤城の山に向かう。終点の大洞でバス下車。昼食後、荷物を食堂に預けて、黒松山の登山にかかる。案内書ではハイキング程度の山歩きのような説明であったが、実は、登山口からものすごい急登を強いられる。この山は外輪山中の最高峰(一八二八米)で、火山岩で覆われている。昨日の疲れが残っている体調にはこたえた登りが続いた。正直

なところ途中で中止の思いが頭を横切った。ふらふらになりながらやっと頂上に達す。山頂付近はガスで眺望は望めなかつた。谷川の双耳峰が見えず残念。帰路は隣の駒ヶ岳を登り返して大沼(火口湖)に下り湖畔の宿に入る。赤城山と言え、国定忠治である。新国劇の名セリフ「赤城の山も今宵限り…」とか東海林太郎の名唱「泣くな よしよし 寝ねしな…」などが頭を過る。(古いなあ!)

さて、多くの感想があるが、経過は以上にして、一言総括。なにはともあれ参加者全員が日本百名山の二峰に足を印したことは、「山の会」として後世の記録に残るだろう。これ、「山の会」が登った深田百名山は二十七座に達した。

「老眼鏡」

ぼけ防止の一方策として競馬を趣味にしている私は、久しぶりに大川慶次郎の「競馬金言集」を読み直しました。

下手な私の読後感よりも、著名人の本書推薦文を紹介します。衆議院議長 河野洋平

「競馬は最高の推理小説である。」というのが、本書の著者、大川慶次郎の思想だ。彼はいわゆる予想屋ではない。慶應義塾大学で心理学を専攻したのは、馬の心理を調べるためだとは思えないが、深夜、東京・東村山の自宅で、翌日の出走馬のデータを分析し、そこからただ一頭の勝馬を捜し出そうとする姿は、ひたむきな学究を感じさせる。

昭和三十六年九月三日、府中競馬で前人未踏の全レース予想的中をなしたとげた。

目下のところ打率七割をマークしている。おそらく競馬評論家中の首位打者であろう。その秘密は、彼が、「金を愛するより

も、馬を愛している」からだ。作家 佐野 洋

右手に二本の本 左手に出馬表

私にとって、大川慶次郎はちよつと困った存在である。レースの前日、私は何時間も資料と首つ引きで穴馬を捜すのだが、こうした苦心の末に見つけた穴馬を、翌日の新聞で大川慶次郎が推薦していることがある。そして、彼が押したとたんに、それはもはや穴馬ではなく、かなりの人気になってしまふのだ。つまり、それだけ彼は競馬ファンの信頼を集めている。いわば、大川教の教祖という形である。その教祖が、もっぱら実践的な馬券戦術を、金言集として披露したこの本は、楽しく読め、得るところもいろいろ多い。

金言を二、三紹介します。「長距離は、人氣薄の逃げ馬をねらえ」 今年の天皇賞的中「見習いは、馬の人氣が思わぬ重荷」 今年のダービー五十嵐騎手(地方競馬の騎手)

私は兄が農耕馬兼競馬馬を飼って棧橋に通っていたので、ギャンブルはパチンコよりも競馬に馴染みを覚えます。

今年は何れもJRA(日本中央競馬会)創立五十周年、高知市出身の天才ジョッキーフ永洋一騎手も「競馬の殿堂」入りが高知新聞八月十四日付に報じられました。

斜陽の「高知競馬」にあつては牝馬「ハルウララ」が孤軍奮闘「客寄せパンダ」の役割を担って頑張っています。

何冊かの本になったり、映画化も現実のものとなつていきます。なにか、徒に競争を強いる人間社会への警鐘のような気もします。(森下芳文)

ロシアの旅

西田 令子

開空よりソウルで航空機を乗り換え9時間、モスクワに到着。ソウルの明るく清潔な空港に比べなんと薄暗く古い空港か、それに入国手続きに時間の掛かるのも現代的でない等と、思いながら、とうとうロシアにやってきました。

かつて社会主義時代、共産党幹部と軍事パレードの赤旗の波で埋まっていた赤の広場は、今や世界遺産となり、イベントやお祭りや国民の憩いの場となっています。色鮮やかな寺院やレーニン廟の上を見上げると、双頭の鷲の旗が翻る大統領府が円形の屋根で広場を見下ろしている。若きリーダー、プーチンの執務室は比処なのか。「エリツインの後を継いだプーチンは76%と高い支持を得ており、一方共産党の支持率は4%です」とガイドの説明。あちこちにスエーデンやドイツとの合資大型ショッピングセンターが建築中で、これからロシアは大きく変わっていくでしょう。ピョートル大帝によって移されて以来、1918年のロシア革命までの300年間、首都はサンクトペテルブルグでした。西欧文化と栄華を極めた数々の遺産を楽しみに、昔エカテリーナが馬車で通ったペテルブルグ街道を私たちはバスで北へ進み、道中山は全く見えず、緑の原野が何処までも延びています。チャイコフスキー博物館を見学、古都ノボゴロドで一泊後、サンクトペテルブルグに到着。

エカテリーナ宮殿は豪華絢爛、美しさは想像以上です。復元された「琥珀の間」は女王のプライベートな部屋として使用され、膨大な絵画・アイコン・宝物とともに今日のロシア観光の目玉になっています。

ドナウ運河の支流ネブア川の川面を美しい中世の街並が彩り、涼しい風に吹かれながら旅の至福を味わった9日間でした。



スキー研修案内
主催：高湯協スキークラブ
日程：2005・2・7(月)～2・11(金)
4泊5日(ルスツ3泊札幌1泊)
(10日は札幌雪祭りの見学です)
場所：北海道ルスツスキー場
宿泊：北海道虻田郡留寿都村字泉川13
募集定員：20名程度
費用：大人約110000円
申し込みその他については次号で御案内します。
みんなで交流しよう北海道で!!